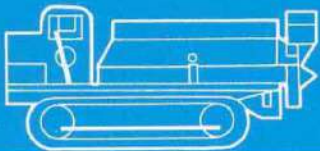


スタビ工法

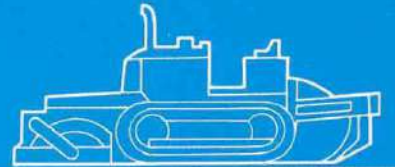
■路床・路盤の土質改良に■

ベーススタビ工法・ディープスタビ工法

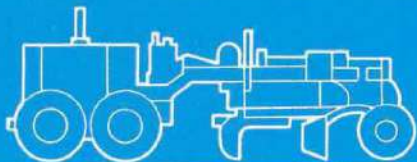
ACCURATE



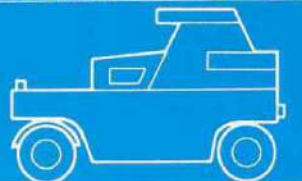
TECHNIC



SPEEDY



PROFESSION



RELIANCE

日本舗道のスタビ工法

スタビ工法(安定処理工法)とは

スタビ工法は、現場の土・砂利・碎石等をその場で改良し、強固な路床・路盤に変える工法です。

当社では、処理厚30cm以下をベーススタビ工法、30～100cmをディープスタビ工法と呼称し、各種用途にご利用いただいております。

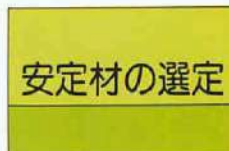
■用途

- ・ 軟弱路床の改良
- ・ 路盤の強化
- ・ 盛土の安定化
- ・ 法面の保護
- ・ トラフィカビリティの確保
- ・ グラウンド、構造物等の基礎地盤の改良

■特長

- ・ 現地材の有効利用
- ・ 省資源で経済的
- ・ 工期の短縮

■施工法



現場の土に適し、経済的なものが選ばれます。

- ・ セメント系安定材
- ・ 石灰系安定材
- ・ 特殊安定材



安定材の運搬・散布は現場に適した方法・機械が選ばれます。



スタビライザは現場に適したものを種々用意しております。



現地盤の状態、安定材の種類に適した方法・機械が選ばれます。



地盤の状況、安定材の種類に適した養生期間を経て供用されます。



改良後の地盤は目的により、道路、工場用地、宅地、グラウンド、緑地、公園などに利用できます。

■施工区分



砂利道・軟弱土・不良土の経済的改良と有効活用

■在来砂利層を路盤とした例

現道の砂利層（多くの場合路床土が混入して路盤材としての規格に入らない）を安定処理し、路盤として利用します。農道や簡易舗装、構内通路などに広く使用されます。諸英面が高くならず、材料入換えの必要もない等、設計面・コスト面で有利な工法です。



■盛土安定に利用した例

圧密沈下の恐れのある材料や施工上に問題のある材料で盛土を行なう場合、または高支持力を要求される盛土工等の場合、スタビ工法による土質安定処理が非常に有効です。



■現地材の有効利用の例

現場近くで発生する材料が規格を下回る場合、安定処理することによって路盤・路床・路体等に有効に利用できます。遠方から良質材を運搬する必要がなく、コスト削減に役立ちます。



■法面保護の例

塊体法面の洗滌防止にも使用されます。波が直接当たる所より下部であれば、十分な効果を発揮します。



■軟弱路床の安定処理の例

置換えを必要とするような軟弱路床をしっかりした路床に改良することができます。置換えに比べて連断層を設ける必要がなく、設計CBRも高くおける上に、掘削給土のダンプ公害がなく、工期短縮およびコスト低下につながる等、メリットの多い工法です。



■グランド基礎等への利用例

軟弱地盤上でのグランド造り、あるいはプールその他構造物の基礎地盤の改良にも広く利用されています。



調査・設計から施工・管理まですべておまかせ下さい。
豊富な機械群、卓越した技術力を駆使し、適確な調査・設計はもとより、迅速・確実な施工、十分な管理をお約束します。

■用途に応じた強力な施工機械



▲安定材散布機



▲ベース スタビライザ〈タインロータ方式〉(最大混合深さ42cm)



▲ディープスタビライザ〈タインロータ方式〉(最大混合深さ50cm)



▲ディープスタビライザ〈タインロータ方式〉(最大混合深さ70cm)



▲スーパーディープスタビライザ〈トレンチャ方式〉(最大混合深さ100cm)



▲ウィンチトラクタと法面用スタビライザ